

基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 21

基本施策 雪に強いまちづくり

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	雪に強い道路づくり	B
施策2	雪に強いまちづくりの推進	B

成果指標

指 標	内 容	平成32年度 目標	平成29年度末 実績	単 位	平成29年度の成果の検証
流雪溝の整備	流雪溝の整備延長距離数	88,000	87,642	m	北部南北7号線の整備により整備延長が拡大した
降雪期前の雪下ろし作業員登録者数	降雪期前の屋根雪下ろし作業員登録者数	200	161	人	目標を達成できていないが、平成30年の大雪により登録者数が増加となった

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現 状	降積雪期における快適な市民生活と円滑な道路交通を確保するため、除雪車や流雪溝の整備、地域ぐるみによる屋根雪下ろしの推進など、雪に強いまちづくりに取り組んできた。
課 題	高齢化、核家族化の進行による高齢者世帯や、市街地の空洞化による空き家が増加しており、これらの除排雪対策のため、地域ぐるみの助け合いによる除雪や、地域で計画的な流雪溝の利用が必要とされている。また、除雪の迅速化や歩行者への安全確保も求められている。

社会情勢・市民ニーズの変化

高齢化により、雪おろしや雪処理に困っている市民が増えている。あわせて除雪車のオペレータが高齢化してきている。

現在の「現状」と「課題」

現 状	・水利権の関係で市街地の流雪溝に必要な水量をこれ以上真名川から取水することが困難であり、物理的に流雪溝の水量を増やすことができない。 ・除雪車のオペレータが高齢化してきている。
課 題	屋根雪下ろし作業員の高齢化が進んでいると同時に新規登録も進んでいないことや、高齢化による将来的な除雪車のオペレータ不足が懸念されるため、新たな除雪作業の担い手の確保が課題となっている。

基本施策の「成果」

成 果	・小型ロータリ除雪車1台を更新し、市直営路線の除雪体制を維持できている。 ・大雪ではあったが、昼夜の除排雪で、概ね市民の足の確保はできた。
-----	--

改善点

高齢化社会を迎え、除雪体制の維持改善と、平成30年豪雪で効果的に機能した屋根雪下ろし作業員登録制度について、作業員登録の必要性を広く啓発し屋根雪下ろし作業員の更なる確保に努める。